

環境情報 Magazine

全国ユース環境ネットワーク

2019 Spring

特別号

全国ユース環境活動 事例集 2018



<第4回 全国ユース環境活動発表大会 環境大臣賞受賞>
長崎県立五島高等学校 五島環境部「島から世界を巻き込め! 海から生み出すお宝大作戦!」活動風景

本誌「全国ユース環境活動 事例集2018」は、全国の高校生や大学生のユース世代が2018年度に実践した環境活動を広く紹介し、情報交換や交流の推進を図るために発行しています。

 環境省
Ministry of the Environment

 独立行政法人
環境再生保全機構

2018年度 全国高校生の環境活動

北海道から沖縄まで、日本全国の高校生が熱心に環境活動に取り組んでいます。

生物多様性の保全、里山保全、リサイクル、地球温暖化対策、海ゴミ問題、水問題、獣害対策、
環境と経済、環境に配慮したものづくりなど、活動のジャンルはさまざま。

また、特に今年目立った活動は、「持続可能な開発目標＝SDGs」に関連する環境活動が
急増しています。全国の高校生が、持続可能な未来社会づくりの活動を進めています。

本誌は、全国ユース環境活動発表大会に応募いただいた高校やセミナーに参加して
発表をしてくれた高校など、全国164団体の事例を掲載しています。

ぜひ今後の活動の参考に、また高校同士での情報交換や交流の一助としてご活用ください。

P2～P16
活動紹介
掲載例

上段：高校名
中段：団体名
下段：活動名

「全国ユース環境活動発表大会」の地区別の都道府県は、環境省地方環境事務所の所管する都道府県別で区分しています。

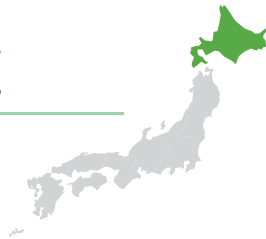
掲載高校一覧

P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9
北海道羽幌高等学校 北海道旭川農業高等学校 北海道北見北斗高等学校 北海道美幌高等学校 北海道標津高等学校 北海道標茶高等学校① 北海道標茶高等学校② 北海道標茶高等学校③ 北海道釧路明眸高等学校 北海道士幌高等学校	北海道帯広南商業高等学校 市立札幌旭丘高等学校 北海道七飯高等学校 北海道函館水産高等学校 青森県立むつ工業高等学校 青森県立尾上総合高等学校 青森県立柏木農業高等学校 八戸工業高等専門学校 青森県立名久井農業高等学校① 青森県立名久井農業高等学校②	岩手県立大槌高等学校 岩手県立釜石高等学校 岩手県立遠野緑峰高等学校 岩手県立盛岡農業高等学校 岩手県立一関第一高等学校 秋田県立秋田北鷹高等学校 秋田県立金足農業高等学校 秋田県立大曲農業高等学校 宮城県気仙沼高等学校 宮城県志津川高等学校 宮城県利府高等学校 宮城県多賀城高等学校 仙台城南高等学校	宮城県仙台北高等学校 宮城県農業高等学校 仙台高等専門学校 名取キャンパス 宮城県柴田農林高等学校 山形県立酒田光陵高等学校 山形県立村山産業高等学校 山形県立山形西高等学校 山形県立置賜農業高等学校 山形県立米沢興譲館高等学校① 山形県立米沢興譲館高等学校② 福島成蹊高等学校	福島県立あさか開成高等学校 福島県立相馬農業高等学校 福島県立原町高等学校 福島県立平工業高等学校 茨城県立竹園高等学校 栃木県立那須拓陽高等学校 栃木県立栃木農業高等学校 群馬県立尾瀬高等学校 群馬県立利根実業高等学校① 群馬県立利根実業高等学校②	群馬県立勢多農林高等学校 千葉県立松戸南高等学校 千葉県立鎌ヶ谷西高等学校① 千葉県立鎌ヶ谷西高等学校② 千葉県立津田沼高等学校 神田女子園高等学校 昭和女子大学附属昭和高等学校 法政大学国際高等学校 神奈川県立中央農業高等学校 慶應義塾湘南藤沢高等部 新潟県立佐渡総合高等学校 加藤学園高等学校	学校法人静岡理工科大学 星陵高等学校 静岡県立静岡高等学校① 静岡県立静岡高等学校② 静岡県立浜松城北工業高等学校 オイスカ高等学校 富山県立中央農業高等学校 石川県立七尾東雲高等学校 石川県立津幡高等学校① 石川県立津幡高等学校②	長野県南安曇農業高等学校 エクセラシオン高等学校① エクセラシオン高等学校② 長野県松本工業高等学校① 長野県松本工業高等学校② 岐阜県立恵那農業高等学校 岐阜県立岐山高等学校 岐阜県立岐阜工業高等学校 岐阜県立不破高等学校 愛知県立豊橋東高等学校 愛知県立時習館高等学校 愛知県立知立東高等学校
P10	P11	P12	P13	P14	P15	P16	
愛知県立刈谷工業高等学校 中部大学第一高等学校 名古屋市立名古屋商業高等学校 名古屋経済大学高蔵高等学校 愛知県立木曽川高等学校 愛知県立佐屋高等学校 滋賀県立八日市南高等学校 滋賀県立山守中学校・高等学校 京都府立木津高等学校 京都府立桂高等学校	京都府立綾部高等学校 京都府立久美浜高等学校 大阪府立長尾高等学校 関西創価高等学校 大阪府立茨木高等学校 大阪成蹊女子高等学校 大阪府立園芸高等学校 清風高等学校 大阪府立農芸高等学校① 大阪府立農芸高等学校② 大阪府立豊岡高等学校 大阪府立豊岡高等学校 大阪府立豊岡高等学校	神戸山手女子高等学校 兵庫県立神戸商業高等学校 兵庫県立加古川東高等学校 兵庫県立洲本実業高等学校 近畿大学附属豊岡高等学校 兵庫県立香住高等学校 奈良学園中学校・高等学校 和歌山県立向陽高等学校 和歌山県立田辺高等学校	岡山県立津山工業高等学校 岡山県立瀬戸高等学校 岡山県立邑久高等学校 岡山芸芸館高等学校 岡山商科大学附属高等学校 山陽女子高等学校 岡山県立高松農業高等学校 岡山県立玉野高等学校 岡山県立勝山高等学校 岡山県立矢掛高等学校① 岡山県立矢掛高等学校② 青翔開智高等学校	米子工業高等専門学校 広島県立世羅高等学校 広島市立広島工業高等学校 出雲西高等学校 島根県立江津工業高等学校 山口県立防府商工高等学校 徳島県立新野高等学校 徳島県立小松島高等学校 徳島県立大分東高等学校 徳島県立徳島商業高等学校 香川県立笠田高等学校 愛媛県立今治西高等学校 愛媛県立上浮穴高等学校 高知県立伊野商業高等学校	東京紫雲学園高等学校 福岡工業大学附属城東高等学校 中村学園女子中学校・高等学校 福岡県立伝習館高等学校 大分県立日田高等学校① 大分県立日田高等学校② 大分県立玖珠美山高等学校 大分県立大分東高等学校 佐賀県立佐賀北高等学校 長崎県立諫早農業高等学校	長崎県立口加高等学校 長崎県立対馬高等学校 長崎県立五島高等学校 熊本県立岱志高等学校 熊本県立南校高等学校 宮崎県立都城工業高等学校 鹿児島県立鶴翔高等学校 鹿児島県立市来農芸高等学校 鹿児島県立薩南工業高等学校 鹿児島県立嘉祥高等学校 沖縄県立中部農林高等学校 沖縄県立南部農林高等学校	



北海道

14 団体



北海道羽幌高等学校

羽幌高等学校 1 学年

羽幌シーバードフレンドリープロジェクト

北海道の天売島は、海鳥の楽園。ただし近年は、海洋環境の悪化、捕食者の増加などにより特定される個体数が減少している。そこで、町や環境省などで作る羽幌シーバードフレンドリープロジェクトに一員として参加。自然環境を更に良くしていくための活動を行っている。



北海道旭川農業高等学校

森林環境班

ササの有効利用 ～ 森林バイオマスとしてのササ資源の利用 ～

林業において「厄介もの」として扱われてきたササの有効利用として、ササ培地から旭農産ウスヒラタケを栽培。また、ササ紙から育苗ポットづくりを実施。今後も木のまち、紙のまち旭川で、林業の再生と地域の大切な森林資源を守り育てる活動を続け、全国に広がってほしい。



北海道北見北斗高等学校

サイエンスクラブ GAP

常呂川でつながる水ミーティング ― 水環境を大切にすまちを目指して ―

「GAP (グローバルアクションプロジェクト)」を 2015 年に発足。地域や世界の環境問題の改善を考え、常呂川調査や地域巡検、講演会の企画・運営を行っている。平成 30 年には市民の水環境保全意識向上を図ることを目的に「水ミーティング 2018」を産官学連携で開催した。



北海道美幌高等学校

環境改善班

美幌の自然を守れ! Part5 ～ 地域とともに歩む自然環境改善を目指して ～

美幌川水系で特定外来種ウチダザリガニを駆除し、在来種ニホンザリガニを保護している。また美幌川水系の水質改善や網走湖のアオコの発生やヘドロを押さえ湖内に生息する在来種保護 (絶滅危惧種保護) をしている。今年度は、幼稚園児や中学生への環境教育の推進も図った。



北海道標津高等学校

自然科学部 & 自然環境系科目

身近な環境理解から広がる地域との絆

標津町の貴重な動植物の調査やオホーツク海の豊かな水産資源のもとになる海洋プランクトンの研究に取り組んでいる。また地域のひとと共に環境学習に取り組み、標津湿原での水質調査、トドマツ稚樹の伐採、稚樹の年輪測定から侵入時期の推定を通じた保全活動を行っている。



北海道標茶高等学校 ①

地域環境系列 環境ゼミ ガイド & ドローン班

みどりひととをつなぐ場をわたしたちの高校で

標茶町は、釧路湿原の 4 割以上と最も広大な面積を有する町であるにもかかわらず、あまり観光客は訪れていない。この課題を解決するため、日本一広い敷地面積の高校内にある山林を舞台に観光客、地域住民へ自然環境ツアーとそのガイドを実施している。



北海道標茶高等学校 ②

地域環境系列 環境ゼミ きのこと班

キノコから見える自然の分解と共生を伝える活動

本校敷地内軍馬山のキノコの発生状況から、キノコを通じた分解者は環境にどのような役割を果たすのか、という事をできるだけ多くの人に情報発信をしている。校内でも中学生の体験入学で軍馬山の自然について発表し、キノコや本校の生態系について発信している。



北海道標茶高等学校 ③

タンチョウトランスミッションプロジェクト

タンチョウと地域の共生を目指して Vol.II ～ 生と死に着目した 3 年目の取り組み ～

タンチョウや各種野鳥の骨格標本を作り、ミニ博物館を本校に作る活動をしている。死んだ動物を骨格標本として形に残し、動物の第二の人生を高校生が作る。骨格標本作製を通して小中高校生や大人、外国の大学生や観光客にタンチョウが生息する地域の素晴らしさを発信している。



北海道釧路明輝高等学校

科学部

自然環境に目を向ける人を増やしたい

科学部では、直接的に環境保護に関わる研究ではなく、「一人でも多くの人が身近な自然に目を向ける機会を増やす。」をテーマに自分たちが興味のあるものを中心に生息調査や変動調査を行なっている。例えば、地衣類研究のための基礎的研究、釧路の漁港におけるプランクトンの季節変動調査、キタカミクラゲの溶解と生態的な地位の調査などを実施している。

北海道士幌高等学校

環境専攻班・士幌環境講座

士幌の原植生 カシワ林を後世に伝えるために

士幌町に残された自然の保全活動として、カシワ林に着目。士幌町カシワ林の代表地点として士幌高校カシワ林を設定し、現況調査を実施している。保全 PR 活動として、小学生や中学校への出前授業を行い、未来の自然を担う若い世代にカシワ林の保全を訴えている。



北海道帯広南商業高等学校

NSE48 (NANSHO ECO 48)

NSE48のエコ活動

生徒会でエコ委員会を設立。別名NSE48(南商エコ48)。単に「エコ活動」を主として取り組んできたのではなく、「地域環境の保全」が今日の最重要課題であることを掲げ、活動全般を通じて環境を守る大切さを尊重し環境にやさしい学校づくりを目指して取り組んでいる。



市立札幌旭丘高等学校

生物部

トンボの調査から自然環境を診断

トンネウス沼におけるトンボ相の移り変わりを調査している。トンボ相を継続的に調査することで、地域の水環境や陸上環境を推定することができる。本研究ではトンボ相が北方系種から南方系種に移り変わっていることが明らかとなり地球温暖化との関係について考察を進めた。



北海道七飯高等学校

科学部

渡島大沼における生物多様性を保全する取り組み

七飯町の渡島大沼は、近年急速に水質が悪化。科学部では、水質が悪化する原因を明らかにし水質浄化を実施。また、大沼には多くの外来種が存在することを知り、特定外来生物であるウシガエルの生態を中心に大沼に生息する外来生物について研究を進めている。



北海道函館水産高等学校

なかの研究所

大沼および流入河川の水質改善活動

渡島大沼青年環境サミットに10年以上参加している。大沼の水は、最終的に函館湾に注いでいるが、水質が富栄養化していることがわかった。流入河川の水質調査と平行して、今年度より流入河川の魚類調査を開始。今後も継続し、最終的に函館湾の環境保全につなげたい。



東北

34団体



東北地区は、

「全国ユース環境活動発表大会応募高校」、

「東北地区 高校生 SDGs セミナー参加高校」、

「環境甲子園応募高校」の環境活動を紹介しています。

(協力: NPO法人環境会議所東北)

青森県立むつ工業高等学校

課題研究 地中熱融雪研究班

地中熱利用による融雪研究

自分たちの手で地中熱融雪装置を設計・製作し、融雪状況の検証を行い、システム改善や地中熱利用の将来性について考察している。将来はビニールハウスを建て、「工業」と「農業」のコラボレーションを行い、地球環境に優しい融雪、温室栽培、産業育成等に挑戦したい。



青森県立尾上総合高等学校

研究グループ「アースキッズ」

生物多様性の大切さを子どもたちに知ってもらうために

SDGsの各項目について、地域の課題解決をするための研究を行っている。「生物多様性」に着目し、その大切さを子どもたちに知ってもらうために、「触れること」「つくること」「食べること」などを通して学べるイベントを考え、計画し、そして実行している。



青森県立柏木農業高等学校

生物活用班

白神山地からニセアカシアを追いかそう ～世界遺産の未来のために～

白神山地周辺地に旺盛に繁殖している外来種のニセアカシア。このまま繁殖を放置しておくとならぬように成長に時間のかかる広葉樹が駆逐されてしまう危険性がある。そこで、これを食い止めるためにニセアカシアの伐採や駆除活動を含めた緑化活動を実施している。



八戸工業高等専門学校

ろぼと娘 in モンゴル

リサイクル支援ゲームの開発

リサイクルが定着していないモンゴルで、小学生を対象にパソコン用のゲームを開発。内容は、3Rの大切さ、リサイクルの仕方、その後ごみの分別を模したミニゲーム。モンゴルでは、地域のリサイクルのサークル活動をしている学生達と話し合いをしながら開発を進めた。

青森県立名久井農業高等学校①

TEAM FLORA PHOTONICS & BUBBLE BOYS

安全な水とお腹いっぱいのお腹を届けるために

発展途上国では富栄養化によって発生した藻類が水に毒性物質を出し、子供たちや家畜の命を奪っている。また散布した農薬が水源を汚染している。さらにこれらの国は食糧不足も深刻。そこで新しい技術を開発し、世界の水質汚染と食糧不足の問題解決に貢献する活動をしている。



青森県立名久井農業高等学校②

環境班

電気がキノコの発生に及ぼす影響 ～迫り来る環境異変の前に～

キノコは低温や雷、菌かきなど物理的な刺激によって原基形成が促されるといわれている。今回、実験で培地内の電圧及び電流の変化によって発生を促せること、そしてその結果、増収できることを証明した。今後も、環境保全と暮らしに役立つ農業技術へ発展させたいと考えている。





岩手県立大槌高等学校

インターアクト部、生徒会執行部

災害に強い住み良い地域づくり

震災後、復興研究会を立ち上げ様々な活動を行っている。復興研究会には防災町づくり班や定点観測班等があり、定点観測班は町内約180カ所の同じ地点から年3回写真を撮影している。津波と復興の過程を継承し、災害に強い住み良い地域づくりをイメージしながら活動が続けている。



岩手県立釜石高等学校

生物A班

EM菌の浄化作用について

東日本大震災で起きた津波の影響で海底のヘドロが打ち上げられ、被災地で悪臭を放つことが問題となった。そこで、EM(有用微生物群)菌という微生物に着目し、水質浄化作用を持つ好気性細菌がヘドロ分解に活用できるかどうか検証することを目的に研究を進めている。



岩手県立遠野緑峰高等学校

草花研究班

遠野の宝「ホップ和紙」～強靱な和紙の開発と新たな利用価値を求めて～

遠野のホップ栽培は、全国の栽培面積、収穫量共に市町村別でトップレベルのシェアを誇っている。廃棄された乾燥ホップ蔓100%を使った和紙作りに取り組む。さらに、ホップ和紙の「ランブシェード」や「ちゃんちゃんこ」の製作や販売を地域の人たちとともに進めている。



岩手県立盛岡農業高等学校／岩手県立一関第一高等学校

2年 JBC! 2!

リサイクルの現状

ボランティアクラブの視点から資源活用について学び、自分たちにできることは何かを考え、行動に移す。若い世代の高校生が、リサイクル活動に熱心に取り組む様子から、地域全体でリサイクル意識を高めようとする姿勢や、リサイクルの大切さを発信しアピールしている。



秋田県立秋田北鷹高等学校

科学部 ESD班

地球温暖化の理解・意識に対する環境教育プログラムの実践

地球温暖化について多くの人の行動・意識が変化することをねらっている。地域の児童館に協力してもらい、地球温暖化の「理解・意識」の高まりに焦点をあてたプログラムを構築。マレーシアに赴き現地の中高生と協働でプログラムを実施。知識の高まりが、効果として認められた。



秋田県立金足農業高等学校

科学部

金農ミツバチプロジェクト

学校周辺に生息するニホンミツバチを飼育し、そのハチミツを多くの人に楽しんでもらいたいという思いで活動している。分蜂群を自作の巣箱に誘引・捕獲して養蜂を行い、採れたハチミツ中の残留農薬などの分析し地域環境の把握や遺伝資源の維持に貢献できるよう取り組んでいる。



秋田県立大曲農業高等学校

生物工学部

田沢湖に注ぎ込む沢に棲む生物についての研究

田沢湖にクニマスを戻すことを第一に考え、水質改善の方法を模索してきた。しかし改善すべきは水質だけでなく生態系であることに気づき、変わってしまった田沢湖の生態系を酸性前の状態に回復させる必要があると考え、その条件を実験的に探しながら研究に取り組んでいる。



宮城県気仙沼高等学校

自然科学部

環境のパロメーターとしての十八鳴浜の観察

鳴砂の海岸として国の天然記念物に指定されている十八鳴浜は、海洋汚染が進むと鳴らなくなるという環境のパロメーターとして注目されている。海岸浸食が問題視される中、砂が無くなる定義を明確にするため、砂の量を測り波の強さとの関係から砂が無くなる条件を探っている。



宮城県志津川高等学校

自然科学部

南三陸の自然の再生力と世界に誇る生物多様性

志津川湾の松原干潟で、震災以降初めて調査を行い、希少な生物の多様性豊かな自然環境であることが確認できた。多くの人たちにこの干潟が自然の姿に戻りつつあることを伝えたいと思い、「松原干潟の生き物たち」という自作の図鑑を作成し、町内の小中学校全てに配布を行った。



宮城県利府高等学校

ROGER (利府環境放射線観測班)・自然科学部

環境放射線・紫外線観測を通じての大気の状態の経時観測・告知の活動および地域との連携

近隣中学校と連携し、紫外線・γ線量計を共有しながら毎日の観測を行っている。紫外線量などは屋外での活動の多い本校生徒のために、毎日の定時・定点観測の結果を校舎中庭にパネルで告知し、全校の健康・安全管理に役立てている。また、町内の海水塩分の経年観測も行っている。



宮城県多賀城高等学校

SS科学部

Bursa.バスターズ ～多賀城高校の松枯れの原因を探るPART2～

学校のアカマツ林に枯れたマツが目立ち、年を追うごとに被害が拡大している。そこで、3年前からアカマツ林の健康調査を開始。被害状況をレポートにまとめ、枯死の原因を追究している。活動は、①アカマツの健康状況調査、②マツノザイセンチュウの検出、③気孔の汚染調査など。



仙台城南高等学校

自然科学部

知ることは守ること! みんなで守ろう八木山のトウホクサンショウウオ

本校には毎年野生のトウホクサンショウウオ(宮城県レッドデータブック:準絶滅危惧種)の卵のうが確認されている。また、産卵場所が本校の水場だけであることがわかっていて、そこで、生態調査を行い、水場の水質を改善し、保全のために多くの人に保護啓発活動を行っている。



宮城県仙台西高等学校

地学部 気象・熱雷研究グループ

仙台上空における大気不安定度の変化について
～地球温暖化の影響との関連

夏季に発生する熱雷の研究を続けている。本校上空での気象変化をとらえるために記録画像のデータを蓄積。最近は大気が不安定になる気象条件を見つけ出すことに絞り、大気不安定度を簡単に知るオリジナルの指数を考え発表した。



宮城県農業高等学校

科学部復興プロジェクトチーム

桜塩から創れ! 循環型農業「桜の国“サクランド”」

～被災農業高校の役目を自覚した私達の復興への挑戦 NEXT STAGE～

本校は東日本大震災で全壊した。2018年4月、「宮農復興の桜」42本が新校舎に植えられた。また、100名規模のボランティアを募り花壇苗を植栽できた。この「奇跡の桜で「桜塩」を作り、「桜塩」開発と6次産業化の試みが住民協力のもとでできた。



仙台高等専門学校 名取キャンパス

チームマテ環

仙台高専発! ペルチェカー ～廃熱を有効利用可能な社会を目指して～

ガソリン自動車のエネルギー利用効率は30～40%程度で、60%以上は大気中に「廃熱」として放出されている。この熱エネルギーを有効利用するために熱を電気に直接変換できるペルチェ素子に着目し、ペルチェ素子を動力源とする自動車「ペルチェカー」の開発に取り組んでいる。



宮城県柴田農林高等学校

猪のみ(ししのい)

獣害あって一利あり ～野生動物と共に生きるために～

捕獲されたイノシシの皮をばざ、なめし、革製品を作るための素材作りにチャレンジしている。食べて「いただく」のではなく、皮を活用して「いただく」といったイノシシの新たな活用方法を紹介していく。日本の農業の現状と野生動物の問題を世界中の人たちに知ってもらうために。



山形県立酒田光陵高等学校

エネルギーで環境保全隊

再生可能エネルギーを利用して、環境保全に全力で取り組む

庄内砂丘は、日本三大砂丘の一つでクロマツ林に覆われ自然が豊か。本校では、全校生徒でクロマツ林の清掃活動や保護活動を行い、工業科の生徒は校内や通学路、自転車小屋の照明設備に太陽光や風力発電の再生可能エネルギーを利用する工事をし、二酸化炭素の排出を抑えている。



山形県立村山産業高等学校

農業部 バイオテクノロジー班

地域特産物ソバに適した植物共生微生物エンドファイトの探索と利用

植物と共生し生育促進効果を示す植物共生微生物エンドファイトを自然界から探索。地域特産物であるソバの生産の農業利用が可能かどうかを検証している。ソバを環境に配慮した栽培方法で生産する高付加価値を消費者にPRするため、新規加工品の開発やイベントも実施している。



創学館高等学校

モノづくり倶楽部

工業学習を活用した持続可能な社会づくり ～地域協働の環境活動実践～

資源を再利用することに着目し「再資源化の利用」というテーマで、「身近にできるECO」のコンセプトのもと、ペットボトル、木材を再利用した「ものづくり教室」、地元地域で開催される行事への参加、ECO大会・コンテストの参加、地域の各団体と連携する協働事業に取り組んでいる。



山形県立山形西高等学校

放課後実験倶楽部

メダカの学校 ～小学生とともに学ぶ地域の生き物～

山形市内の小学校でビオトープづくりの活動に参加。自然にいるメダカを見たことが無い児童がほとんどだったので、小学生と一緒に山形市内に生息している在来種のキタノメダカを探し、メダカの学習を行い、小学校で繁殖させ、ビオトープで観察できるよう活動に取り組んでいる。



山形県立置賜農業高等学校

圃場整備班

みんなで作る未来の農村 ～理想の圃場整備事業を求めて～

農作物の生産性向上に欠かせない圃場整備。整備方針をビオトープの設置とし、地元農家、地域住民などとともに学習会を重ねながら魚道とビオトープ設置の活動を行った。今年度は魚道の再設計をし、地元の豊かな自然環境を守る人材育成と交流の場として利用することを目的とした。

山形県立米沢興譲館高等学校①

SSクラブ環境DNA班

環境DNAを用いた地域の外来生物の生息マップ作成

本地域における水棲の外来生物に着目。水に浮遊・存在する環境DNAの分析により水棲生物の生息状況を推定する生物モニタリング手法を用い、その分布状況の生息マップを作成する調査・研究を進めている。今後は、絶滅危惧種などもターゲットにして生息調査をしていきたい。



山形県立米沢興譲館高等学校②

チーム「コンクリート」!

遮熱性コンクリートについて

コンクリートの影響で、夏がさらに暑くなっている。コンクリートの上に遮熱性塗装をすることで夜間の熱の放射を抑えることができることを知った。そこで、コンクリートを塗装して温度を下げるのではなく、コンクリート自体がそのような効果を持てないかと考え実験を進めている。

福島成蹊高等学校

社会研究部

福島の水問題

「福島の水問題」というテーマで、福島市内を流れる河川が水資源としてどのように活用されているかについて研究を進めている。また、福島県の歴史と関連させながら、今まで環境に配慮した取り組みがどのように行われてきたのか、できなかったのかについても研究を行う予定。



福島県立あさか開成高等学校

サステナブルスピリッツ

～持続可能な開発目標(SDGs)から考えるあさか開成高校の取り組み～

「SDGs」の貧困、ジェンダー、水、不平等、平和と公正、パートナーシップについて学んでいる。水と共存の活動では、猪苗代湖の清掃活動や浄水場見学などにも参加した。今後も豊かな未来創造の足掛かりとなるべく、より多くの活動を通して福島の復興・再生に携わっていききたい。



福島県立相馬農業高等学校

農業クラブ

南そうまハマネスProject

ふくしまレッドリスト絶滅危惧IB類の「ハマネス」に着目。地域の活性化とハマネス香る故郷を目指したハマネスProjectに取り組む。植樹会、花見・観察会、放課後子ども教室や自然体験塾を開催。製品化までたどり着いた「ハマネスジャム」は、地域交流イベントで販売している。



福島県立原町高等学校

数科学部

グリーンカーテンの断熱と紫外線カットの効果についての研究

グリーンカーテンとすだれの断熱効果の比較、遮光効果の有効性、植物の違い(アサガオ、キュウリ、ゴーヤ)による温度上昇の差、紫外線カットの効果の実験を行った。結果、植物の葉は人工物と比べ遜色ない遮光があり、紫外線の値はゴーヤの遮断能力がすだれよりも優れていた。

福島県立平工業高等学校

生徒会

「もったいない!」からはじまる環境活動

様々な活動を17年間継続している。活動は、①アルミ缶のリサイクルによる老人ホームへの椅子寄贈、②アフリカ・マリ共和国ヘジャージや運動靴を送る活動、③インクカートリッジ回収による発展途上国支援、④ペットボトルキャップ回収で世界の子供達にワクチンを贈る活動。



関 東

23 団 体



関東地区は、

環境省地方環境事務所の所管する

都道府県別で区分しています。

(関東地区 = 茨城、栃木、群馬、千葉、埼玉、東京、
神奈川、新潟、山梨、静岡)

茨城県立竹園高等学校

JRC部

穴塚の谷津田における古代米プロジェクト

霞ヶ浦周辺の環境保全を目的として、土浦市穴塚大池周辺の谷津田を開墾し、無農薬肥料の自然農法による古代米づくりを始めた。現在、谷津田は耕作放棄が増え、本校近くの谷津田を再生する「古代米プロジェクト」により豊かな生態系の回復に取り組んでいる。



栃木県立那須拓陽高等学校

大山農場プロジェクト

「オシャラクブナの里」創造計画

絶滅寸前の「ミヤコタナゴ」。栃木県那須地区で生物多様性の保全を図る活動を進め、「オシャラクブナ(ミヤコタナゴの方言)の里」としてブランド化し、地元のJAなどと協力しながら農業所得の向上を目指す。ミヤコタナゴが生息できる環境を作るまでの課程を本校から発信していく。



栃木県立栃木農業高等学校

農業土木科プロジェクト班

土のうプロジェクト ～千里の道も一袋から～

身近な林道である環境省所管「関東ふれあいの道」の被災箇所の修復工事を地域住民と一緒にやっている。災害発生土を除去し、その土を使って土のうを製作。施工の際は、小中学生や地域住民への「ESD活動」にも取り組み、今年度は1000人以上を巻き込んで活動した。



群馬県立尾瀬高等学校

理科部

尾瀬ニホンジカ調査 ～自然との共生を考える～

尾瀬ヶ原に本来生息していなかったはずのニホンジカの増減や気象条件の影響を15年間調べている。また尾瀬の現状やシカのことについて学校外の研究発表会や学会などで発信している。今後も、すばらしい尾瀬の自然を守り、自然(野生動物)と人の共生を図っていく。



群馬県立利根実業高等学校①

生物資源研究部

イノシシの色覚を利用した侵入防護研究と普及活動

野生動物から農業被害を防ぐことを目的に、イノシシの侵入防護対策の研究を行っている。農業廃材の青色園芸ポットなどを利用した侵入防護柵(青ポット柵)を設置した。圃場での侵入被害をもたらす成獣は実験開始から平成30年10月現在、2年9か月間侵入していない。



群馬県立利根実業高等学校②

生物資源研究部

赤城山におけるニホンジカの生態・行動調査

ニホンジカの「踏み荒らし」被害、林業被害、湿原の希少植物の食害などが深刻な問題。農林業被害の縮小と希少植物の保護を目的に行政機関と連携し、ワイルドライフ・マネジメントに基づくニホンジカの生態・行動調査、研究、情報発信を行っている。



群馬県立勢多農林高等学校

植物バイオ研究部

国の名勝及び天然記念物「冬桜」の保全に関する研究

藤岡市鬼石にある桜山公園のシンボルである「冬桜」は、12月と4月の二度咲く珍しい形質を持ったサクラ。しかし近年、冬桜の樹勢が衰え、現状が続けば公園内の冬桜の全滅の可能性もでてきた。本研究部では、植物バイオテクノロジーを活用した桜山公園の保全活動を進めている。



千葉県立松戸南高等学校

科学研究部 Team Quad-E

地域の生態系保全のための技術の研究

ビオトープづくりの様々な技術に挑戦し、他の団体に知識の提供し生態系保全活動を応援したい。現在、「水草ゲージの作成と運用～動物たちから沈水植物を守り育てる～」、「冬期灌水水田作成のための水撃ポンプの製作及び設置～よみがえれ、冬水田んぼ～」に取り組む。

千葉県立鎌ヶ谷西高等学校①

Team KAMAGAYA

伝える、広げる! Team KAMAGAYA!

企業の「服のチカラプロジェクト」に参加。もっと鎌ヶ谷市の全体にこの活動を浸透させたいと思い、2年生全体で市内の小中学校すべてに協力を依頼。市民祭や公民館祭りでもブースを作って紹介をし、地域にこの「服のチカラプロジェクト」活動が広がっている。



千葉県立鎌ヶ谷西高等学校②

2年1組

私たちの防災対策

地域に貢献できる活動として防災について考えている。AEDマップの製作、AED救急法の資格取得、心肺蘇生の練習ができる人形の製作、夜光避難Tシャツも作った。子ども110番の調査も実施。防災食についても考え、これらは文化祭、地域の公民館で発表した。



千葉県立津田沼高等学校

理科部生物班 バイオ担当

アオサのバイオエタノール化への挑戦

谷津干潟では「アオサ」という海藻が大量発生し、腐敗し悪臭を放ち、水生生物の窒息死、水鳥への悪影響が起きている。これらの問題を解決するために、アオサを有効活用し大量に消費するバイオエタノール化を考え、より精度の高いエタノールを作ろうと努力している。



神田女学園高等学校

地球市民

破れた靴下とSDGs

2年生の「地球市民」という探求型の科目でSDGsをテーマに活動し、校内に発信している。「破れた靴下を有効活用しよう」プロジェクトでは、在学中に大量に捨てている指定用品の破れた靴下をリサイクルするために回収箱を設置。きれいに洗った靴下をリサイクル企業に送っている。



昭和女子大学附属昭和高等学校

生徒会 総務部

私たちの学校からはじめるSDGs

コンポストの利用、世田谷公園清掃ボランティア活動、3R活動、コンタクトレンズの空ケースとインクカートリッジの回収、「届けよう、服のチカラ」プロジェクト、サービスマーケティング、フラワーコンクールの実施、BYODによるペーパーレス、靴・使用済み歯ブラシの回収など。



法政大学国際高等学校

エコ・アクション・プロジェクトチーム

50年後の子どもたちにつなぐ緑の惑星・地球

グローバルシチズンとして「50年後の子どもたちにつなぐ緑の惑星・地球」をスローガンに、「里山・森林の自然保護活動」「節電・節水運動」「食品ロス問題」「プラスチック等の廃棄問題」「リサイクル化運動」のチームに分かれ、足下の環境改善運動から取り組んでいる。



神奈川県立中央農業高等学校

養豚部

モルト粕による地域資源循環をめざして

地元のビール工場から廃棄されているビール粕(モルト粕)を活用した資源循環型飼料を開発。飼料コストを約50%、生産コストを約36%削減し、環境に優しく低コストでおいしいオリジナルブランド豚肉を生産。地産地消として地元のデパートや東名高速SAで販売中。



慶應義塾湘南藤沢高等部

環境プロジェクト

次世代の環境と経済に! ecoを繋ぐ Logy & Nomy

慶應義塾大学の特別プログラムで開発されたボードゲーム型の環境教育ツール「Logy&Nomy」を通して、環境と経済の繋がりを学ぶ環境問題の啓発活動を行っている。更に、ゲームを改良し、国内の小学生から海外の高校生までを対象に普及啓発を進めている。



新潟県立佐渡総合高等学校

GIAHSプロジェクトチーム

佐渡の社会を考える! GIAHSを用いた地域活性化プロジェクト!

人間もトキも生物も、食べなければ生きていけない。また、佐渡の農業や漁業は陸の豊かさ、海の豊かさを守り、生物を保全している。私たちは、食と環境をテーマに世界農業遺産や佐渡の魅力を発信し、食育に取り組み、地域全体を巻き込んだ社会づくりを自ら実践していく。



加藤学園高等学校

化学部

黄瀬川における化学的視点からの調査 ～溶岩石の浄化機能～

今日の地球において水を守ることがどれほど大切か。私たちは、富士山からの溶岩石が上流に存在する黄瀬川に注目し、溶岩石の水質浄化機能を化学的視点から調査。黄瀬川に目立った汚濁が見られないのは、溶岩石の浄化機能が影響していると推測できる。





学校法人静岡理工科大学 星陵高等学校

バイオメタン研究班

バイオメタンを利用した新しい暮らしの提案

主に生徒の家庭の生ゴミを原料としてバイオメタンを生成し、消化液を用いた栽培をして、地域の資源をどのように活用し循環することが望ましいのかを地域の課題や魅力に照らして活動している。地域のイベントでも情報発信し、バイオメタンの普及・啓発を継続している。



静岡県立静岡高等学校①

生物部河川班

静岡市内の七河川におけるミクリ調査

静岡県内で準絶滅危惧種になっている植物の保全方法を考えるため、静岡市内の七河川において準絶滅危惧種「ミクリ」の株数と生息地の環境要因(水質調査)の記録を続け、集めた情報から株数の増減と環境要因の関係を考察している。侵略的外来生物についても調査している。



静岡県立静岡高等学校②

生物部麻機沼班

麻機沼における準絶滅危惧植物の調査

麻機沼における準絶滅危惧植物であるタコノアシとミゾコウジュの調査を行い、生息数や分布域の変化を確認し、その原因や自分たちを取り巻く地域の環境の変化を探っている。県内の他の学校と情報を共有し、静岡大学のポスター発表会にも出場し情報発信をしている。



静岡県立浜松城北工業高等学校

環境部

地域の自然を守る「地球にやさしいエンジニア」を目指して

いろいろな地域での里山づくり・森づくり・自然保護、芝生化整備、「城北リサイクルステーション」、浜松公園「葵の小道(双葉葵の植栽)」づくり、中田島砂丘・浜名湖・佐鳴湖グリーン作戦、浜松市防潮堤・植樹、WSの開催、「エコツアー」、「ISO14001」内部監査員の養成研修。



オイスカ高等学校

自然科学部

浜名湖生物資源マングローブガニの研究

これまでに、浜名湖水質浄化、在来種への生態系への影響、減災実験のために浜名湖干潟へマングローブ(メヒルギ)を植栽してきた。その干潟に「幻のカニ」といわれるマングローブガニを見かけようになり、新たな観光資源として生態調査や養殖技術の研究をはじめた。



中部

22団体



中部地区は、

環境省地方環境事務所の所管する

都道府県別で区分しています。

(中部地区= 富山、石川、福井、長野、岐阜、愛知、三重)

富山県立中央農業高等学校

小動物研究班

農業高校生が取り組む「とってもかわいいSDGs」プロジェクト

野生動物が集まる耕作放棄地等の対策「生息地管理」が必要とわかり、耕作放棄地等3.3haヤギとブタの放牧に活用。地域の方々と市民団体を結成し、「ヤブーベルトビレッジ」を作った。サルとイノシシの「えさ場」を減少させ、畜肉産業として活用ができ、農地にも再生できた。



石川県立七尾東雲高等学校

能登ちゃべちゃべ隊

能登の里山(棚田)環境と景観保護活動から繋がる。地域活性化プロジェクト

七尾市の耕作放棄地棚田の復活活動、棚田の歴史的な水源整備、棚田米の商品価値利用を目的とするお米コンクールの入賞、棚田の環境破壊の原因となっている孟宗竹の有効活用として食品開発、竹を活用したハウスの制作と野菜栽培などを実施し、地域の活性化を推進している。



石川県立津幡高等学校①

園芸部

伝統と文化を紡ぐ養蚕復活プロジェクト

植樹用の桑の苗木を生産し、耕作放棄地に桑の木を植え、里地里山の原風景を再生し環境を保全している。また地域の活性化を念頭に置き、桑やシルクを活用した特産品の開発に取り組む。「桑の葉ほうじ茶」や「桑の葉パウダー」を製造。繭で作る「シルクコサージュ」も制作した。



石川県立津幡高等学校②

朱鷺サポート隊

トキ保護の普及・啓発活動

①石川県でのトキの分散飼育を後押しする、②トキの絶滅の原因や人と共生できる環境づくりを学習する、③トキ保護の啓発と里山の保全に取り組む。そして、これらの活動の成果として、石川の空にトキが舞い、トキと人と共に暮らせる「朱鷺の里」の再生を最終目的としている。



長野県南安曇農業高等学校

土木研究部

廃コンクリートに命を。土木に未来を ～ピザ窯でつなぐ地域の輪～

今後、益々増加すると考えられる廃コンクリート。そこで、廃コンクリートの配合割合を変え圧縮強度試験を実施。強度をあまり必要としないコンクリートを用いた小物の開発、販売を行った。また、このコンクリートでピザ窯を作り、文化祭時にはピザを焼き販売しPRをした。

エクセラン高等学校①

「フクシマ」を忘れないプロジェクトチーム

「フクシマ」を忘れない

今年のプロジェクトとしてエネルギー学習に取り組み、太陽光や木質バイオマスでの調理会を開いた。また「災害食を考える」エコスクールを実施。小学生家族やお年寄り、町会の防災係や大学生も参加。エネルギーや食について考えて動ける自分たちでいるための学習や活動を続けている。



エクセラン高等学校②

エクセラン 最初の1歩! チーム

エクセラン エコプロジェクト

①植生調査、②水質調査、③環境保全活動、④プラスチックゴミ問題の把握とゴミ削減の可能性を探る、⑤食生活から国際社会に与える影響を探る、⑥エコスクールを実施、⑦小学校やNPO団体の学習会で出前授業、⑧環境フェアなどでのワークショップ、⑨研究機関や他の団体と交流。



長野県松本工業高等学校①

じんべーず

ICTを使った自然あふれる信州を紹介するデジタル紙芝居活動

①信州の素晴らしい自然を伝え、守るストーリーのデジタル紙芝居の制作。②ICTを活用し、遠隔地に出かけなくてもデジタル紙芝居を上演出来るようにした。③近隣の老人ホームで紙芝居を上演した。④信州学サミットに参加しデジタル紙芝居の上演。その活動をポスター発表した。

長野県松本工業高等学校②

ハイビスカス

マレーシアで学ぶ、2030年までにできること

マレーシア・シンガポールの高校や大学、企業を訪問し、技術者と交流。マレーシアの高校で協働実験をし、国花である「ハイビスカス」を使った「色素増感太陽電池」を製作。実際に太陽に当てると電子メロディーの音楽が流れた。2030年までに自然エネルギーの割合を高めたいと考えた。

岐阜県立恵那農業高等学校

花咲かみつばち倶楽部

花咲かみつばちプロジェクト ～みつばちとともに里山の調査・保全・活用～

里山の植物にとって必要不可欠なミツバチを守りたいという思いから活動を開始。耕作放棄地を活用し蜜源植物(レンゲ、エゴマ)を増殖。また、蜂蜜天然酵母のエゴマ食パンを開発し販売。さらに、エゴマとエゴマの葉、蜂蜜を利用した万能味噌を開発。すべての収穫物の販路を創出した。

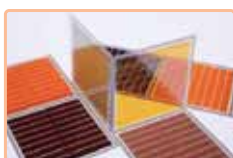


岐阜県立岐山高等学校

化学部

エネルギーと環境問題を解決するカラフル太陽電池の研究

作製時の環境負荷が小さいカラフルな太陽電池を作製。増感色素の混合や天然色素を利用したカラフル太陽電池は、ポスターや看板の代替やプラスチックなどフレキシブル素材への応用などにつながり、エネルギーと環境問題を解決できると考え研究をしている。



岐阜県立岐阜工業高等学校

化学研究部

私たちでもできること・私たちだからできること

地域の環境活動から、東日本大震災被災地支援、カンボジア支援と活動している。地域の公民館や小学校で年間約40回の講座も行っている。また、スマートフォンを使って災害時のネットワーク構築。さらに災害時や発展途上国で利用できる水の浄化装置の開発にも取り組んでいる。



岐阜県立不破高等学校

自然科学部

増加するニホンジカと豊かな里山のバランスを保つために私たちができること

本校は、独立峰の南宮山の山麓に立地している。南宮山を、シカの密度管理を行うモデル地区にしたいと考え、密度管理の指標を検討するためにニホンジカの個体数と生態系の研究をしている。そして、人とシカと里山がバランスよく共存するために、地域連携や情報発信を進めている。



愛知県立豊橋東高等学校

GLOBE

東三河の自然の語り部になろう

「東三河の自然環境を守って、東三河ジオパークの実現を応援したい」という思いで活動をしている。豊橋市自然史博物館、鳳来寺山自然科学博物館と連携し地域の石を調査。蒲郡市生命の海科学館でバーチャルツアーを実施。一般の人や小学生、中学生を対象に情報を発信している。



愛知県立時習館高等学校

SSH生物部

三河湾の環境調査 part.6 ～環境変化の原因～

三河湾は、貧酸素化や硫化物の堆積が深刻。愛知県水産試験場と三谷水産高校「愛知丸」の協力で、夏の三河湾の水質・底質調査を実施。また市街地を流れる梅田川、農地を流れる汐川で流入河川の水質調査を行った。地域と連携し、これからも三河湾の環境を守っていきたい。



愛知県立知立東高等学校

自然科学部

猿渡川の生態系について ～外来生物の影響と地域への情報発信～

本校近隣を流れる猿渡川に生息する生物について調査を行っている。多くの外来性の動植物が確認され、特にミシシippアカミミガメについては捕獲調査や個体の成長速度の測定などを実施してきた。「外来生物が如何に私たちのすぐ身近にあるのか」など多くの人たちに発信している。





愛知県立刈谷工業高等学校

生徒会

人力発電機の製作 ～若いエネルギーを電気エネルギーに～

運動部が筋力トレーニングの練習に励む動力を活かして、発電機を製作することを試みた。筋力トレーニングから発電機につなげるため、エアロバイク式の器具を製作した。3台完成。多くの部活動が使用し、発電機については正門に電光掲示板を製作し行事等で文字を流すようにした。



中部大学第一高等学校

ESD部

にっしんCOOL CHOICEプロジェクト

愛知県日進市と連携し、小学生家庭を対象に環境配慮行動である「COOL CHOICE」の体験的普及を図っている。ワークショップやオリジナルのボードゲームを実施し、地球温暖化の解決について考えた。子ども会大会などのイベントでは千人以上の小学生と交流し、意見交換を行った。



名古屋市立名古屋商業高等学校

商品開発研究班

葦から“Zoo” Flight

川辺や干潟に広がる葦の群落。葦の持つ「水質浄化作用」と「生物多様性の維持」に着目し、環境保全活動とビジネス活動を連動させる活動を実施。葦を原材料とした「小型のポーチ」や「うちわ」の商品を完成させた。海外からの旅行者への「クール・ジャパン」の土産物として開発した。



名古屋経済大学高蔵高等学校

理科部

ボランティアから始まった環境保護活動

毎月第1日曜日、山崎川の街路樹を守る清掃ボランティア活動を行った。前もって仕掛けておいたカメを捕獲する亀ワナやたも網で、山崎川の生物を捕獲して、生物相の調査と外来生物の駆除を行った。ミシシippiaカミミガメが激減し成果が現れた。日本カメ会議で結果を発表した。

愛知県立木曽川高等学校

総合実務部

国の天然記念物 木曽川のイタセンバラを地域の宝に！～私たちにできることは何か？～

絶滅危惧種であるイタセンバラは、飼育したり繁殖させたりすることはできない。そこで、環境省の許可をもらい、イタセンバラの校内飼育と展示を始めた。また、生息地のワンド周辺の除草・清掃をし、国土交通省主催のイタセンバラが産卵をするイシガイの調査に参加した。



愛知県立佐屋高等学校

文鳥プロジェクトチーム

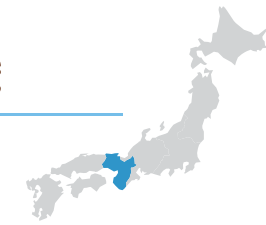
命をつなぐ！ 弥富の手乗り文鳥よ再び！

生産農家が残った2軒となってしまった弥富文鳥文化を守る後継者として、繁殖・産卵に向けた取組、手乗り文鳥の育成、ひなの譲り渡しなどの活動している。本校の「文鳥の命をつなぐプロジェクト」で繁殖した手乗り文鳥を、再び弥富市で販売し、文鳥文化の復活を目指していく。



近畿

25 団体



滋賀県立八日市南高等学校

花緑デザイン科 ランドスケープデザイン班

猪子山 ～高校生コーディネートによる里山保全活動の12年～

小学校と「猪子山森林再生」事業、二五八祭・滋賀けんせつみらいフェスタ・農業祭での本校の環境保全活動に関する啓発活動、東近江市尻無町「水源の森」の環境保全活動と小水力発電に関する共同研究(高校間連携)活動などを行っている。今後も地域の依頼に応じていきたい。



滋賀県立守山中学校・高等学校

SGH課題研究 ホタルチーム

守山ホタル再生プロジェクト

ホタルが飛び交う風景を市街地で復活させる活動をしている。対象地の吉川川で、ホタルの幼虫を放流してその飛翔数を観察した。幼虫に適した環境作りを行い、整備が有効である可能性と3匹のホタルの飛翔が確認された。今まで飛翔が確認されていなかった市街地で大きな成果を得た。



京都府立木津高等学校

生徒会

毎月15日は地域クリーン活動だ

毎月15日、木津駅前で地元の方と生徒会合同で総勢200名余りで駅前クリーン活動に取り組む。木津川市の玄関である駅前をきれいにしようと、地元商店、地域の方々、駅を利用する方が集まり協議会が発足。本校生徒会も参加し、早朝、ポイ捨てゴミを拾う活動を続けている。

京都府立桂高等学校

第3研究群「地球を守る新技術の開発」研究班

植物の隠れた能力を引き出す!! ～未利用資源MAPを活用した新技術の開発～

下水処理時に発生する未利用資源のリン酸マグネシウムアンモニウム(MAP)を肥料として活用することを発案。現在、芝の緑地やムギ栽培の実証試験を行っている。肥料の削減、生産性と品質向上させる研究として、土壌環境の改善や食料自給率の向上に繋がる研究として取り組んでいる。



京都府立綾部高等学校

分析化学部

地域と歩む由良川保全活動 ～由良川レンジャー奮闘記～

由良川は大切な地元河川。安全安心な食料生産の確保、生物多様性の保護のため、市や市民、企業、関係団体を巻き込み、多岐に渡る保全活動に取り組んでいる。水田水と河川水の測定、水生生物調査、外来生物の調査、ゴミ捨て禁止の呼びかけ、出前授業、啓発活動・情報発信など。



京都府立久美浜高等学校

農業クラブ

京丹後市久美浜町における海岸マツ林の再生を目指して

海岸マツ林では、近年マツノザイセンチュウによる松枯れの被害が激しく、飛砂による農作物への被害が増加している。そこで、地域と連携し、「松林再生プロジェクト」の活動を実施している。主な取組は、マツの学習、除草や除伐、マツ苗の育苗、植樹、樹後の管理・生育調査など。



大阪府立長尾高等学校

理科学研究部

船橋川の水質定点モニタリング

行政が測定していない河川の水質を通年で継続調査し、環境に異変があった時に備えている。月に最低1回の水質調査を実施。また、水質検査ワークショップで水質環境啓発に取り組む。特に、牧野小学校との取り組みは枚方市のいきいき広場と地域連携し、淀川レンジャーとも協働した。



関西創価高等学校

ISS EarthKAM Project Team

TCAP “Think Cosmically and Act Personally!”

地球的問題群の解決やSDGsの実現に向けて、宇宙的視野から発想し、自ら行動を起こせる人を増やすことを目的に活動している。小学校出前授業から市民講座、イベントなど1年間で延べ5000人を超える人に環境問題と地球的問題群、SDGsに対する関心を高めてもらう取り組みを行った。



大阪府立茨木高等学校

茨高 家庭部

笑顔でつなぐ環境！食と子ども

「食」を良くすることがすべての環境を良くすることにつながると考えている。1日3回環境のこと考え、食品ロスを考え、ごみも考え、またTFTは地球全体のことを考える。具体的には、①環境フェアでのエコ・ッキング ②小学生の茨キッズッキング ③市役所のレストランでTFT活動など。



大阪成蹊女子高等学校

キャリア特進コース

食品ロス改善プロジェクト

「食」に対する意識を高め、食品ロスの現状を知り、ロスしない工夫をしてもらうことを目標とし、食べ残し、過剰除去、賞味期限切れによる廃棄などを防ぐための活動を行っている。オープンスクールでより多くの人に活動を情報発信。地域の老人ホームで食品ロスの対策啓発に取り組む。



大阪府立園芸高等学校

ブルーギルバスターズ

特定外来生物ブルーギルの食性調査と防除活動

3年前に箕面山のオヶ原池にブルーギルとオオクチバスがいるのを確認した。ここは、水を抜いてこれらを捕獲することはできないので、箕面市上下水道局の許可を得て釣竿を用い1年間で約1000匹のブルーギルを捕獲した。解剖して何を食べているかを調査し環境フォーラムなどで発表した。



清風高等学校

水質改善班

水環境の新たな改善方法 ～アオコの抑制とヘドロの再利用方法～

アオコが毎年多く発生している池で、ヘドロの表層を除去することで今年のアオコの発生を抑制できた。またヘドロには植物の肥料に有効な成分が含まれていることから、ヘドロの肥料化を試み、工芸作物であるひょうたんの栽培を行い、肥料として有効であることを確認した。



大阪府立農芸高等学校①

酪農専攻

食品廃棄物を活用したエコフィードの可能性

食品廃棄物を濃厚飼料の代替とする発酵飼料の研究に取り組む。飼料の安全性が認められ、高校全国初の「農芸エコフィード」として認証を取得。肥育牛への給与試験で、嗜好性の良い安価な飼料であることを明らかにした。エコフィードを活用した乳製品は地域のイベントで販売した。



大阪府立農芸高等学校②

総合環境部

ひろがれ合鴨水稲同時作

人にも環境にも優しい循環型環境保全型農業の確立を目指し、合鴨水稲同時作を行っている。合鴨による防虫防除などした稲作でよいお米を生産し、鴨に肥育期間を設け鴨肉を生産。お米は米・食味分析鑑定コンクールに出品。鴨肉は「農芸鴨」として企業連携し販売した。



大阪府立堺工科高等学校 定時制課程

生徒会活動部

エコ・プロジェクト

不要な油を使って電気を作る「バイオディーゼル発電機」を製作し、地震・台風等による停電の際に地域に役立てたい。「バイオディーゼル発電機」で電球を点灯する「キャンドル・ナイト」、「電動自転車」の試乗イベント、「ドローン」を使って近隣の避難マップの作製などを進めている。



大阪府立長野北高等学校

科学同好会

鉄の温泉を使って魚と緑を増やす方法

大阪湾は深刻な貧栄養化に陥り、海中の鉄不足が原因の1つとされている。そこで、南河内地方の石仏鉱泉でフルボ酸鉄を形成しそのまま海まで流れて供給される事で植物プランクトンが増加し、獲量の向上や地球温暖化対策等により大阪湾が豊かになる。という研究に取り組む。



神戸山手女子高等学校

(仮)カメラ部

神戸市立相楽園におけるニホンイシガメ保全の試み

淡水ガメの実態調査を行っている。相楽園の協力で、イシガメの生態を調査。データを集めることで、①イシガメの季節による身体データの変動、②イシガメの個体群密度などを推定。個体群密度が低くなった在来種のニホンイシガメを一カ所に集めて繁殖できるかどうか観察している。



兵庫県立神戸商業高等学校

理科学研究部 県商りかけん

海岸漂着ゴミの回収と調査研究

西舞子海岸、竹野海岸、山陰海岸などで漂着ゴミ回収。漂着ペットボトルを持ち帰り、生産国や消費年月日をよみとり、調査研究を行っている。大阪府の淀川ワンドでは、ゴミ回収と外来生物の駆除活動をした。また砂浜のマイクロプラスチック調査をし、結果を発表している。



兵庫県立加古川東高等学校

自然科学部地学班湿地チーム

ため池における管理負担を軽減した低水位管理方法の提案

現在農業使用がされていない源太池で、農業使用外ため池の新たな水利施設の提案を目標として、防災面と生態系の研究を行った。源太池を『湿原化』した際の洪水調節容量の変化を現地調査し、現状でのため池の危険性と低水位管理の有効性の情報を発信することができた。



兵庫県立洲本実業高等学校

ソフトエネルギー研究ユニット

持続可能な未来社会にむけて 一ひかりプロジェクト

再生可能エネルギー技術、特に市街地に有用な小型縦軸型風車に着目し、改良サボニウス風車、改良クロスフロー風車を製作してきた。被災地に役に立つものをと考え、石巻市や陸前高田市に風車街路灯を設置。さらに、近隣地区には豊富な農業用水を利用した水車街路灯も設置した。



近畿大学附属豊岡高等学校

NSC 高校自然部 鶴部 ~ToLive~

世代を超えた繋がり ~持続可能なコウノトリ生息地保全活動による地域貢献~

コウノトリが野生復帰を果たした今、それを受け継ぎ、継続し守っていく活動に取り組む。ハチゴロウの戸島湿地で、コウノトリの餌場、生息環境を整える湿地保全、外来種駆除、生物調査を定期的に行っている。第1回アジアユースグリーンリーダー会議で活動報告も行った。



兵庫県立香住高等学校

海洋科学科 アクアコース

アユを追いながら海と川の間を知る

アユのあまり解明されていない海での生活を探求し、一生の謎を解明し、仔稚魚が生き残るために何が大事なのか研究をした。流下仔魚調査、仔魚孵化調査、産卵場所予想、実習船で曳き網調査、トロール調査などを実施。漂着ゴミも多数存在し環境がかなり悪化していることがわかった。



奈良学園中学校・高等学校

SS研究チーム

校内サギソウ群落の保全プロジェクト

校内の湿地に自生する環境省レッドデータブック準絶滅危惧種(県では絶滅寸前種)指定のラン科サギソウ群落の新しい恒久的な湿地を整備し安定的に保全する活動。現在、台風の影響を受けたサギソウ移植地の再整備、並びに地下水汲み上げ装置の組み立てを行っている。



和歌山県立向陽高等学校

環境科学科

ペットボトルの分別を世界中に広めるために

学校で分別されたペットボトルを用いて回収箱を作り、箱にペットボトルを入れるごとに数が増えるカウンターを取り付けた。またリサイクルについての知識を広めるポスターを作製した。学校から校外へ、そして世界でラベルやペットボトルキャップが完全に分別される社会を目指す。

和歌山県立田辺高等学校

田辺中学校・高校 生物部

生物多様性豊かな鳥の巣半島を守ろう ~アフリカツメガエルの駆除活動~

鳥の巣半島では、アフリカツメガエルが生態系に大きな影響を与えている。また41ヶ所ある溜池のうち29ヶ所で成体を確認。罠をかけ池の水を抜く方法に改良を加え駆除を行っている。外来生物の影響を多くの人に知ってもらうために鳥の巣半島の生き物について発表した。



中国・四国

24 団体



岡山県立津山工業高等学校

化学部

竹の有効活用 ～自分たちにできる地域貢献～

竹を微粉砕することで高騰したおがくすの代替として牛舎敷料とすることができ、役目を終えた敷料が土質改良剤として見込まれ循環型資源活用の目途がついた。笹も丸ごと粉碎するため竹を全て使いきった。「竹の有効利用と地域貢献」の取組を全国産業教育フェア山口大会で発表した。



岡山県立瀬戸高等学校

ぴーち

お肌ピチピーチ

「未来をよりよくするために地域の課題を知る」をテーマにした探究学習を実践している。落ちてしまい廃棄せざるを得ない桃を有効活用し、「お肌ピチピーチ」というハンドクリームを作り、特産品の桃の宣伝、桃農家の副収入を実現する。という経済分野から資源循環を目指した提案を発表した。



岡山県立邑久高等学校

自然環境グループ 2018

タナゴ類保全プロジェクト ～二枚貝の長期飼育に挑戦～

貴重なタナゴ類の保全のために、産卵母貝である二枚貝の飼育方法の確立に取り組む。二枚貝の飼育方法の確立や繁殖に成功すれば、野生の二枚貝の捕獲が減り、タナゴ類の保全に大きく貢献できると考えている。二枚貝の屋内での長期飼育に適した条件を探っていく。



岡山学芸館高等学校

医進コース ガタガタマリナーズ

里海創生 ～アマモ場再生活動から人工干潟の保全まで～

アマモ場再生の環境要因を探り、人工干潟の保全について調査・研究を行っている。この1年半の成果として、地元の海でも底質を改良することでアマモ場再生の可能性が示唆されたこと、人工干潟表面に構造物を増やすことで生物多様性が高くなる可能性が示唆されたことが挙げられる。



岡山商科大学附属高等学校

工業技術同好会

海洋と工業技術

18年間、「海洋と工業技術」の諸問題に取り組んでいる。はじめは、「海岸清掃ロボット」の製作。今は、食料問題として、海洋資源、海洋マッピング、汚染など活動は多岐にわたる。ここ数年は、JAMSTECでの「水中ロボット」コンテストに参加して各大学からアドバイスを受けている。

山陽女子高等学校

地歴部

協働体制の確立による海洋ごみ問題の解決大作戦

世界中が解決に向けて頭を悩ませている「プラスチックごみ」問題に、地域のメディアやNPOや行政など専門や得意分野のノウハウを集結して活用する「協働」体制の確立を念頭に、この役割の成果について活動に取り組む。同様の問題を抱える日本の地域や世界各国のモデルとなる。



岡山県立高松農業高等学校

高農環境を考える会

「一人の百歩より 百人の一歩」プロジェクト

スイゲンゼニタナゴの保護活動・生息環境保全、水質調査・生態調査など地域の環境調査を通じて環境保全の知識・技術を身につける。身につけた知識・技術を生かし、小学生と一緒に地域の環境について学習するとともに、この地域の恵まれた自然を将来に繋げていく後輩を育てていく。



岡山県立玉野高等学校

チリメンモンスター研究班

チリメンモンスターから見た海の環境

日本全国の異なる時期や地域で採集された選別前のチリメンジャコに含まれるチリメンジャコ以外の生物(チリメンモンスター)の種類や量を調べることで、海の生態系や環境の違い、変化がわかる。環境保全センターや水族館、公民館などで小学生対象の実験講座を開催している。



岡山県立勝山高等学校

夢現プロジェクト

バイオディーゼル燃料を流通させるには

「バイオディーゼル燃料を流通させるためには」というテーマに取り組んでいる。バイオディーゼル燃料を精製している企業を見学し、バイオディーゼル燃料の利用を実用化している岡山市職員から説明を受けた。岡山市モデルを地元である真庭市でも実現させたいと活動している。



岡山県立矢掛高等学校①

チャリボーイズ

「得得市」でチャリ発電！

電気の大切さを実感できる場面が身近にあれば、多くの人が節電を意識すると考えた。そこで、身近にある自転車を利用した発電機を自分たちで製作。電気を作ることの大変さや大切さを発信するために、矢掛駅前の日曜朝市「得得市」で実際に発電し、地域の人にも体験を呼びかけた。



岡山県立矢掛高等学校②

サイエンス部

スイゲンゼニタナゴの保護

校内の池で絶滅危惧種であるスイゲンゼニタナゴを保護している。ウシガエルのおタマジャクシの駆除、水草の除草、ヘドロの除去などを行い、スイゲンゼニタナゴが生息しやすい環境を作っている。また、矢掛町の朝市や学校の文化祭で発表したり写真を展示したりしてきた。



青翔開智高等学校

探究農業班

鳥取の農業人口減少を食い止める

～アプリ提供による家庭菜園の簡易化を目指して～

新規就農者を増やすために、始めるのが比較的簡単な家庭菜園についてのアプリ開発に取り組む。アプリ開発に必要な画像認識について学び、家庭菜園をやっている方の協力を得て病気・害虫被害が比較的軽度な(処置を施せる程の段階)の画像を集めようと計画している。



米子工業高等専門学校

B&C 研究同好会

卵殻廃棄物のリサイクルによる建材の開発

食品廃棄物の中でも利活用が進んでいない卵の殻について応用ができる研究を進めている。壁材や樹脂に卵殻を混ぜた材料を作り、それが使えるか検討を行い、見た目の仕上がりが良い石膏と卵殻を組み合わせた素材について、暮らしの役に立つ材料を開発した。



広島県立世羅高等学校

鯉米

錦鯉廃棄稚魚を活用した鯉米・魚醤生産による地域活性化

多くの鯉の稚魚が発色の悪いことを理由に、1年間で396万匹が産業廃棄物として処分されている。処分される鯉の活用方法として魚醤を生産した。耕作放棄地対策として無農薬米を栽培することを考え、廃棄される鯉の稚魚が田の除草をする鯉米を作った。米に付加価値をつけることができた。



広島市立広島工業高等学校

広島市エグリーン・プロジェクト

高校生による、持続可能な社会の実現

身近な環境情報を知ることを通して地球環境の現状把握「見える化」を行い、データの蓄積により長期変化や局地的な異変などを考察し、地球環境への負荷を軽減するエコアクションに展開する。防災対策と復旧活動に役立てる用品の製作と災害に備えるエコ活動を目指す。



出雲西高等学校

インターアクトクラブ

出雲発! 海岸清掃及びマイクロプラスチック問題についての考察

生態系への悪影響が懸念されるマイクロプラスチックについて、身近な海岸における存在の実態を把握するため、海辺の漂着物調査を行う。人間が自然に対し関わりを持ち、大切にし、ゴミを取り除こうと努力している海岸はゴミが少なく、マイクロプラスチックの数も少なかった。



島根県立江津工業高等学校

KM班

環境 to ものづくり

地場産業である石州瓦の破片、木材のおがくず、使用期限が切れたセメント、不要になった採石の活用について研究をした。捨てるだけであった割れた瓦や古い瓦を利用して花壇の石垣作り、古いセメントと割れた瓦を材料にし、おがくずを混ぜた保水性のよいセメント製品を製作した。



山口県立防府商工高等学校

3年課題研究 ホットショップ 店舗経営班

持続可能な環境活動を目指して ~エシカル消費が世界を変える~

「エシカル消費」という考え方をもとに活動を行っている。「SDGsフェスタ」というイベントを地元防府市内の合計6店舗で開催した。また全国産業教育フェア山口大会では、子供達に楽しみながら「SDGs」の内容が学べるよう工夫して「SDGsゲーム」を実施した。



徳島県立新野高等学校・小松島西高等学校勝浦校・小松島高等学校

緑のリサイクルソーシャルエコプロジェクトチーム

今、地球のために私たちに何ができるか! 「刈草」から無限に広がる高校生の環境社会イノベーション

東日本大震災への復興につながる活動として、岩手県陸前高田で私たちが開発した資源循環型肥料「もったいない2号」が校の植樹用土に活用されている。徳島県内では、徳島県のレッドデータブックに掲載されている「ナミキソウ」の保護活動に地域と連携して取り組んでいる。



徳島県立徳島商業高等学校

ビジネス研究部

Palmsugar Story ~未来への希望~

カンボジアで活動。狙いは、1. 食品加工工場に共有するヤシ砂糖を衛生的で安全なものにしたい。2. カンボジアの地方のヤシ砂糖農家の生活向上を図りたい。3. ヤシ砂糖を活用して、徳島県民の健康増進を図りたい。4. 2020東京オリンピック・パラリンピックの関連施設に食材として供給したい。



香川県立笠田高等学校

植物バイオコース

よみがえれ 我がふる里の自然 ~ササユリの保護と増殖に関する研究~

瀬戸内海に浮かぶ広島には、香川県の天然記念物であるササユリが自生している。現在、絶滅危機状態となり、ササユリ保存会のみなさんと一緒に島に球根を植え付け、観察を継続中。私たちが目標とするのはバイオ技術ではなく、種子繁殖で簡単に増殖できる方法の確立。



愛媛県立今治西高等学校

生物部

今治市蒼社川の生態調査と都市河川としての保全

「蒼社川」は今治平野を形成する二級河川。蒼社川での生態調査に継続的に取り組み、上流部で絶滅危機種の繁殖地を発見しての保全、水生昆虫による水質汚染調査の新しい手法の開発、今治市下水浄化センターと協力した子どもたちへの教育などの活動を行っている。



愛媛県立上浮穴高等学校

カホンプロジェクトチーム

森林(もり)の想いを音色にのせて ~カホンを通じた森林環境教育の実践とSDGs達成に向けた取組~

上浮穴郡久万高原町は、森林面積が90%以上を占める。持続可能な森林管理技術の確立、木材利用の推進と啓発、SDGs達成に向けた取組の3本を柱として活動を行っている。間伐を実施し適正な林分密度へ誘導。ワークショップを行い、355個のカホン(楽器)を製作した。



高知県立伊野商業高等学校

和紙部

土佐和紙の魅力を伝えよう!

地域の宝である土佐和紙の魅力を知り、新たな商品開発をしている。高校の学園祭で、和紙部のブースを立ち上げ、自分たちの製品(名刺の紙、栞、和み灯りという名前の照明)を販売した。地元の職人さんのブースも作り、会場のお客様に土佐和紙の魅力を紹介し、販売の手伝いをした。





九州・沖縄

22団体



東筑紫学園高等学校

理科部 広谷湿原保全プロジェクト

平尾台&広谷湿原 水の起源を探る十高校生が国際条約に挑戦!

日本で唯一、カルスト台地に存在する貴重な湿原、広谷湿原の成因、増減、再生の全3点から考察し、ラムサール条約登録に向けて活動している。土壌硬度による湿原境界の数値化、安定同位体による水の分析を研究し、3年後の2021年の締約国会議を目指している。



福岡工業大学附属城東高等学校

環境委員会

全校生徒一丸となって行う環境活動

全校生徒が一丸となって環境活動を行っている。主な活動は、ごみの22分別の実施、ごみの計量、省エネ活動、環境ボランティア活動、美化チェック。ねらいは生徒一人一人の環境に対する意識の向上のため。地道な活動の継続が全校生徒の環境改善意識向上につながっている。



中村学園女子中学校・高等学校

インターアクトクラブ

奉仕活動

毎週末に行う乳児院でのボランティアを始め、熊本大分地震関連のボランティアや大雨による被害を受けた朝倉への募金活動、海岸清掃を目的とした合宿なども実施している。学生の時だけでなく社会人になっても生涯ボランティアに携わり、奉仕の精神で貢献できる人材になりたい。



福岡県立伝習館高等学校

自然科学部生物班

柳川掘割をニホンウナギのサンクチュアリにするための研究と活動

柳川で育ったたくさんのニホンウナギがマリアナ海溝周辺海域で産卵してほしいと考え、ニホンウナギの研究と活動を始めた。現在までに1800尾ほどのニホンウナギを柳川掘割に放流し、37尾を再捕獲できた。また、掘割の魚類、甲殻類、貝類のモニタリングを継続している。



大分県立日田高等学校①

科学部生物班

絶滅危惧種ミツガシワの謎を追え! ~知られざるミツガシワの謎に迫る~

大分県で絶滅危惧種IAに指定されているミツガシワが、なぜ温暖な日田・玖珠地域にのみ生育しているのかを生態学的な見地から調査・研究を行っている。今後も県内に唯一残っているミツガシワ自生地、更には絶滅に瀕している植物をどう保全していくか取り組んでいく。



大分県立日田高等学校②

ジビエ班

ジビエを食べて綺麗に美しく! ~食を通した地域活性化を探る~

近年ジビエの価格高騰や肉の独特の臭いにより消費者から敬遠され、消費拡大に向けた対策が急務となっている。健康と美容に着眼点を置き、高校生なりの考え方で各機関と連携し、ジビエ特有の肉の臭みを取る方法や料理法等を考案し地域貢献に役立ちたいと考えている。



大分県立玖珠美山高等学校

地域産業科 おおいたうつくし隊

私たちの手で、日田・玖珠の自然と環境を守れ! ~循環型農業をめざして~

おおいたうつくし隊は、「豊かな自然環境を将来の世代に継承する」ことが目標の県民運動。地域産業科全員で「おおいたうつくし推進隊」に加盟し積極的な活動を行っている。大きな取り組みは、自然保護活動、地域の美化活動、環境保護、パークを中心とした循環型農業の展開。



大分県立大分東高等学校

農業部

地域交流活動を通した自然保全活動の取り組みについて

本校の家庭クラブと連携し、家庭ゴミの生ゴミ軽減やCO₂削減に活かせないかと思い活動を開始。生ゴミから堆肥化することで家庭の生ゴミを減らすことができ、土壌の改良や保肥力を向上させて有機野菜を生産し販売する。生産農家とも連携し活動を進めている。



佐賀県立佐賀北高等学校

地学部

小型の雨量計を作成し、局地的な雨を調べる

本校では約30年間、ほぼ毎日定時に屋上に固定されている雨量計で降雨量を測定している。近年、夏に「ゲリラ豪雨」と呼ばれる局地的な雨が降る回数が増加していることから、持ち運びができる程度の雨量計を製作しいろいろな場所での雨量を測定している。



長崎県立諫早農業高等学校

食品科学部

規格外びわの有効利用法 廃棄物「ゼロ」への挑戦

長崎県はびわの生産量全国第1位。ただし、露地びわで約50%、ハウスびわで約20%が規格外品として処分されている。この規格外びわを用い、新しい加工品の商品化を達成。さらに、びわの廃棄物が一切生じない「ゼロ・エミッション」の究極のエコ活動を研究している。





長崎県立口加高等学校

グローバルコース 環境班

持続可能な環境を口之津から ～与茂作川復活プロジェクト～

ジオパークの一部で大好きな地元の与茂作川を後世に残し、自分の子供たちに多様な生物が自生する状態の川を見せたい。川の歴史、魅力を多くの人に知ってもらい、ホタルなどを見に足を運んでほしいという思いで、水質検査や生態系回復の研究を行っている。



長崎県立対馬高等学校

ユネスコスクール部

対馬市役所等と連携したツシマウラボシジミの保護活動

「日韓ビーチクリーンアップ」をはじめとした環境美化活動を継続しつつ、新たな主たる活動として国内希少野生動植物種に指定された「ツシマウラボシジミ」という対馬固有亜種のチョウの保護に取り組んでいる。このチョウが絶滅すると、日本で最初の絶滅したチョウとなる。



長崎県立五島高等学校

五島環境部

島から世界を巻き込め! 海から生み出すお宝大作戦!

潮の流れに乗って、五島の海岸には多種類のごみが多く漂着している。そこで、学生団体を立ち上げ、学校外の多くの人に海ゴミの存在を知ってもらうために海ゴミでアートを作った。人を巻き込むことが持続可能な活動をする上での一番重要なポイントだと考えている。



熊本県立岱志高等学校

理科部

荒尾干潟の生態系多様性研究とアウトリーチ活動

荒尾干潟のベントス(底生生物)の種類を調査したり温度など環境を調べたりすることで、生態系多様性が高いことを明らかにする。さらに、観察会等でのボランティアスタッフ、シンポジウム等で干潟の重要性を情報発信しアウトリーチ活動を積極的に展開する。



熊本県立南陵高等学校

バルーンアート

ふうせんかずらプロジェクト

「おかどめ幸福駅周辺の地域活性化」をテーマに、環境工学科・園芸科学科・生活経営科の3学科の特長を活かした駅緑化及び広報活動をしている。「ふうせんかずら」の特徴(ハート模様の種)を活かし、駅ホーム、駅前、売店にハート型オブジェを設置。地域貢献を進める。



宮崎県立都城工業高等学校

化学技術部

都城地区河川水質改善プロジェクトから始めた8年間の環境保全活動

大淀川は、国土交通省の水質ランキングで、九州26河川中で17位と下位。化学技術部は、都城地区河川水質改善プロジェクト協議会に参加。大淀川や排水路の採水・水質検査、県の教育フェア、地区や本校の文化祭での発表や展示等の広報活動を進め、水質改善に貢献したい。



鹿児島県立鶴翔高等学校

作物班

水産廃棄物「ウニ」の有効活用 ～リサイクルで環境保全～

海藻を荒らす長ウニは食べられず、廃棄にも費用がかかる。また牧草は、化学肥料をたくさん散布し環境の汚染につながっている。そこで、廃棄物「ウニ」を原料とした有機発酵液を作成し、農作物の収量や糖度、土壌環境を改善し、豊かな海を取り戻す活動に取り組んでいる。



鹿児島県立市来農芸高等学校

ツバキ班

ツバキプロジェクト ～家畜にも人にも優しい畜舎の環境改善と畜産振興を目指して～

地元自治体で、悪臭苦情の3分の1が畜産や堆肥など農業関係の苦情であることを知った。諸問題の解決方策として、栽培管理が容易で校島での植栽数が多いツバキを畜舎周りに植えることで悪臭軽減を目指す「ツバキプロジェクト」に取り組み、臭気軽減効果を実証した。



鹿児島県立薩南工業高等学校

課題研究チーム

循環型社会を実現するために

本校では、毎年小学生に工作体験教室を行っている。アルミ空き缶は、加工しやすく、デザイン性も高い。アルミ缶を使った工作体験を計画し、普段できないリサイクル品による金属加工体験を実施している。今後は、研究成果を下学年に伝え資源循環について考えていく。

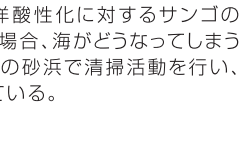


鹿児島県立喜界高等学校

喜界島サンゴ礁科学研究所

サンゴ礁から見る未来の海の多様性

海洋酸性化は地球温暖化とともに起こる。海洋酸性化に対するサンゴの耐久性を明らかにし、温暖化がそのまま進んだ場合、海がどうなるのか予想する研究を進めている。また、喜界島の砂浜で清掃活動を行い、集めた漂流物がどこから来たものなのか調べている。



沖縄県立中部農林高等学校

エコ・リサーチ部

製紙スラッジを活用したエコ資材の開発 ～産業廃棄物で癒しの空間づくり～

製紙スラッジは、パルプおよび紙製造の過程で排出される汚泥(産業廃棄物)。コストをかけず、製紙スラッジの利用方法の確立が求められている。そこで、培養土の作成及び植物生育調査、硬化度実験、ペレットの作成、造園資材の作成などに取り組む。



沖縄県立南部農林高等学校

科学部

国場川・長堂川の河川調査Ⅴ ～きれいで遊べる川にするために～

長堂川は、4年連続「水質評価Ⅳ」で水が大変に汚い。原因調査を行い、身近な材料(サンゴの死骸、モモタマナの炭、ドラゴンフルーツ枝の炭や乾燥粉末、ソテツの炭)を用いて水質浄化の実験を行っている。今後は、ミシシippアカミガメなど外来種の調査も行いたい。



2018年度 全国大学生の環境活動

全国ユース環境ネットワークは、全国大学生環境活動コンテスト実行委員会に協力をいただき、今年も「全国大学生環境活動コンテスト」の共催をし、「近畿地区大学生 SDGs セミナー」、「全国大学生 SDGs セミナー」を実施しました。

大学生の環境活動は、事業計画から実施まで大学生が主体になり実践しています。また、SDGsにも取り組み、特に地域の方々や行政、企業などと連携し、環境教育を進めているのも大きな特長です。

本誌では、「第16回 全国大学生環境活動コンテスト」、「近畿地区大学生 SDGs セミナー」に参加いただいた大学団体の環境活動事例を掲載しています。今後の活動の参考に、大学同士での情報交換や交流の一助としてご活用ください。

(協力：全国大学生環境活動コンテスト実行委員会)



第16回 全国大学生環境活動コンテスト



近畿地区 大学生SDGsセミナー

北見工業大学

環境保全学生委員会 KITECO

大学や周辺地域を対象に市民と学生が生活しやすい環境を作る活動を行っている。日常生活で何気なく行っていることが実際にエコなのかを検証し、数値化・データ化し、SNSなどで発信。また、週に一度、大学構内のゴミ拾いをし、ポイ捨て削減に効果的であるという仮説でプランター活動を推進。今年はゴミ計測と名を変えて活動している。



日本工業大学

学生環境推進委員会

4つの方針に基づき、地域に住民の方々と協力して日々活動をしている。①学生に環境に関して興味を持ってもらう、②学生に環境に関して活動をしてもらう場をつくる、③学校から町、町から学校への活性化、④学生による環境マネジメントの推進。具体的には、リサイクルショップ、宮代町民祭り安全美化委員会、たばこ清掃などを実施している。



芝浦工業大学

石垣島をもっと元気にするプロジェクト

サンゴの白化・死滅の要因である過度な赤土流出の問題を改善しサンゴ礁保全を行う活動をしている。サンゴ礁保全の意識啓発と緑肥推奨を目的にイベントを開催、小中学生へのサンゴ礁保全の授業。さらに、今年度は関東圏の人に石垣島のサンゴ礁の現状や活動を知ってもらい、石垣島に興味を持ってもらうべく学園祭で特産品などを販売した。



早稲田大学

学生環境NPO環境ロドリゲス

やまなび(環境×里山)、えこのわくま(環境×早稲田)、たまご(環境×川)、ecoSMILE(環境×教育)、Dream Connection(環境×進路)、Re-Cover(環境×商品開発)、REC(環境×地域活性)の7つのテーマで活動している。例えば、福井県鯖江市での小学生への環境教育、千葉県君津市鹿野山での里山整備など。大学でのピラ拾いやゴミの分別指導は団体全体で取り組んでいる。



学生団体

emfactory (インカレ)

EcoなMoneyを作り出すfactory!になりたいという想いで、「環境とビジネスの軸を持った人材を輩出する」を理念に掲げている。中野区観光協会と提携し、近年注目の食品ロス食材の販売を今年は3回実施。環境ビジネス企業へのインタビューや、児童・園児への環境教育も実施。「学生の環境意識の向上」を目的に大学生向け環境ワークショップも開催している。



東京農業大学①

学生環境団体 いそべや

学内における環境意識の啓発、地元児童への環境教育を通年で行い、夏合宿ではゴミ拾いボランティア活動を実施している。通年企画は、①学校の生協と協力して学生向けの活動をする「生協企画」、②地元の子供向けイベントでワークショップを開く「エコ梅」企画、③合宿とボランティアを兼ねた「海ごみ企画」、④収穫祭での「収穫祭企画」を実施。



東京農業大学②

ボランティア部

父島では、小笠原の固有種を守るために、外来種であるモクマオウ、アカギ等の伐採を行う。固有種の「オガサワラグワ」をシンボルとした村民参加型の森づくりにも取り組む。母島の外来植物の駆除活動を行う。小笠原の美しい海を守るには、固有種が存在する山や森の自然を守らなければならないという危機意識を島民の皆さんと共有したい。



ICU サステナブルキャンパス委員会

学生ワーキンググループ SUSTENA

ICUキャンパスの自然豊かな環境で、主にICU生の環境意識を高め、自然環境について考えるきっかけを作る活動をしている。大学食堂でテイクアウト容器に利用しているリリパックを回収。回収率は80%を超えている。また、E-weeksでの自然観察会と映画鑑賞会、地域活動への参画と地域の他団体との交流も実施している。





東京都市大学

ISO学生委員会(イソ)

学内外の環境に対する意識の向上を目的に活動。主にエコライフフェアやエコプロなどの外部企画への参加。また、毎年10月に環境ISOフォーラムを行い、内外に活動報告や環境面で活躍している方の講演などを主催している。各部会では、学内でのごみの混在率測定、電力測定などによる学生への啓発や中学校での環境講座の開催など幅広く行っている。



三重大学

環境ISO学生委員会

●3R活動として古本回収、再生可能容器「リ・リ・パック」の回収、●ゴミ分別の推進、学内の放置自転車対策、●緑化活動として屋上緑化、緑のカーテン、落ち葉を利用した堆肥づくり、●地域の方々と協力する海岸清掃、地域の小学生への環境授業の実施、地域の環境イベントへのブース出展、などを通して、学生の環境意識の向上を目指している。



滋賀県立大学

環境団体ECOST

一人でも多くの人の環境意識を上げることをモットーに、外来種駆除や地産地消、フェアトレード、外国人環境交流、環境学習、農業など多角的に大学生らしい活動を行っている。ECOSTではメンバーの自主性を尊重し、一人の意見にみんなが耳を傾けて活動を進めている。活動を行うことで、団体内外への環境意識の向上を目指し日々努力している。



京都大学

エコ〜るど京大

全員参加型で環境負荷を低減し、この後も持続できる「持続可能な大学」の実現を目指している。多様な視点から環境問題を考え、地域も巻き込んだ活動を行っている。具体的には、学内外に向けたフリーマーケット、普段の食などと持続可能性を繋げるイベント、たんにすに眠っている着物を寄贈してもらい次世代につなぐ企画などを行っている。



京都経済短期大学 ①

経短ごみゼロプロジェクト

地元の夏祭りや学園祭での屋台から出るごみを減らすために、リユース食器の導入をすすめ、かつ実践する活動をしている。住民の方へのプレゼンや段取りなど、学生自身が企画。実際のお祭りの場においても、エコステーションで分別や食器回収などを実践。今後も地域が持続的にごみを減らしていくことができる仕組みについても考えていく。



京都経済短期大学 ②

けいたんエコクラブ

「ごみを減らすのではなく、生み出さない」が目標。地域の夏祭りでは、リユース食器の導入を地元の方に働き掛け、リユース食器の手配や当日の分別等の運営、返却等すべての作業に携わった。来年度には、大学の学園祭でもリユース食器が導入できるように準備をすすめている。また、食品ロスを削減する「使い切りクッキング」にも取り組む。



同志社大学 & 同志社女子大学

えこまな@京田辺

京田辺市や地域の方々と連携し環境活動に取り組んでいる。地元小学校で環境教育授業を実施。毎年より良い環境教育プログラムとなるようブラッシュアップを続け、昨年度からは野外での自然体験イベントの開催も行い、その成果は環境教育授業のプログラムに反映されている。地域の環境イベント、学園祭で環境問題に関する展示も行っている。



摂南大学

エコシビル部

近畿の河川で、清掃活動、外来種駆除活動、Eボートを用いた親水活動などの活動をしている。目玉である手漕ぎの10人乗りEボートを用いた活動では、毎回多くのお客さんが河川と親しめる貴重な体験ということで大人気。その他、天若アートプロジェクトや新天地 in NEYAGAWAといった祭事の企画・運営に携わり、全国各地で多岐に渡る活動を行っている。



大阪大学

環境サークル GECS

「環境問題に関心の薄い人に環境活動に対して興味を持ってもらうためのきっかけ作り」を活動の目的に掲げている。箕面川の清掃、一国の主ゲーム、フリーマーケット、吹田市と協力した環境啓発活動、リサイクル活動、環境教育、壁面緑化、ユニークなゴミ拾いイベント、キャンパスに花を植える景観改善などを実施。将来持続可能な社会を整えていく。



大阪府立大学

環境部エコロ助

学園祭でゴミの分別や管理、模擬店でゴミを減らすリデュースやワークショップ、大学敷地内で野菜を栽培、大阪府と連携し農空間保全イベントを開催、壁面緑化、自転車リユース、弁当容器やミスプリントなど資源の回収とリサイクル、ゴミ拾い活動などに取り組む。環境教育班は、エコレンジャーショーなどを通じた環境教育活動に取り組んでいる。



奈良女子大学

環境サークル eco-SA

「環境問題を身近だ!と思ってもらえるように、study & act!」をテーマに環境問題に関する情報共有を行ったり様々な環境イベントに参加し、学びと行動とどちらともを大切にしている。結成してからまだ4年目で、主体活動は少ないですが、環境問題について詳しくない人や興味のない人でも、環境問題に関わっていこう!と思えるような活動を進めている。



近畿大学農学部

学生団体FeeLink

「次世代環境を切り開く人材を育成する」ことを目的として活動している。私たちの学び(Feel)を社会につなげる(Link)ことで社会を変えていく。農学部での学びを活かした活動では、無農薬での作物栽培の実践、都市部における屋上緑化、ビオトープの施工、希少種の保全、また連携先の小学校では全学年を対象に環境教育を行っている。



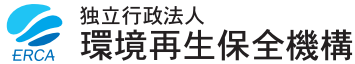
第4回 全国ユース環境活動発表大会 全国大会が開催されました。

主催

全国ユース環境活動発表大会 実行委員会
(環境省・独立行政法人環境再生保全機構・
国連大学サステナビリティ高等研究所)



会場：国連大学



2019年2月9日(土)、10日(日)、東京都渋谷区の国連大学において「第4回 全国ユース環境活動発表大会 全国大会」が開催されました。

降雪の天候の中、全国から選出された出場予定の16高校が元気に参加し、日頃より熱心に実践している環境活動を発表いたしました。

いずれの高校も素晴らしい発表で、その内容は環境保全、地域の課題解決、継続的な調査研究、技術開発、SDGsへの取り組み、国際協力など、高校生の環境活動は多岐にわたっていました。



出場高校と表彰(全国16高校)

環境大臣賞

長崎県立五島高等学校 五島環境部

環境再生保全機構 理事長賞

岐阜県立恵那農業高等学校 花咲かみつばち倶楽部

国連大学サステナビリティ高等研究所 所長賞

東筑紫学園高等学校 広谷湿原保全プロジェクト

読売新聞社賞

名古屋市立名古屋商業高等学校 商品開発研究班

特別賞・高校生選考賞

愛媛県立上浮穴高等学校 カホンプロジェクトチーム

特別賞・先生選考賞

青森県立名久井農業高等学校

TEAM FLORA PHOTONICS & BUBBLE BOYS

優秀賞

・市立札幌旭丘高等学校 生物部

・北海道帯広南商業高等学校 NSE48 (NANSHO ECO 48)

・福島県立平工業高等学校 生徒会

・新潟県立佐渡総合高等学校 GIAHSプロジェクトチーム

・群馬県立利根実業高等学校 生物資源研究部

・京都府立綾部高等学校 分析化学部

・京都府立桂高等学校 第3研究群「地球を守る新技術の開発」研究班

・広島県立世羅高等学校 鯉米

・山口県立防府商工高等学校 3年課題研究 ホットショップ 店舗経営班

・徳島県立徳島商業高等学校 ビジネス研究部

第4回 全国ユース環境活動発表大会

【主催】 全国ユース環境活動発表大会 実行委員会
(環境省・独立行政法人環境再生保全機構・
国連大学サステナビリティ高等研究所)

【後援】 読売新聞東京本社

【協力】 環境省地方環境パートナーシップオフィス (EPO)
地球環境パートナーシッププラザ (GEOC)
ESD活動支援センター

【協賛】 キリン株式会社
SGホールディングス株式会社

協栄産業株式会社
三井住友海上火災保険株式会社



発行
全国ユース
環境ネットワーク
事務局

〒212-8554 川崎市幸区大宮町1310番 ミューザ川崎セントラルタワー8階
独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金内 全国ユース環境ネットワーク事務局
Tel: 044-520-9505 メール: youth@erca.go.jp 法人番号: 8020005008491
URL: <http://www.erca.go.jp/jfge/youth/index.html>

